

長野県産業振興機構広報誌

# Escort

エスコート

January  
2023

創刊号

CONTENTS/目次

- P.1 ▶ 広報誌「Escort」創刊に寄せて
- P.2 ▶ **特集：きらりNICEな企業 株式会社小松精機工作所**
- P.4 ▶ TOPICS：事業者様の取り組みをサポートした8事業の紹介
- P.8 ▶ コラム：「DXのすすめ」シリーズ1
- P.9 ▶ News: イベント・セミナーのご案内
- P.10 ▶ News: 研究会のご紹介



## 長野県産業の持続的な発展を伴に

理事長  
山浦 愛幸



新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年4月に公益財団法人長野県テクノ財団と公益財団法人長野県中小企業振興センターが合併し、公益財団法人長野県産業振興機構として生まれ変わり、はや9か月が経過しました。この間、大きな混乱もなく、順調に事業を進めることができましたのも、多くの皆様の当機構への格別のご支援の賜物と、厚く御礼申し上げます。

さて、新機構では、製造業のみならず、長野県経済の発展を支える様々な産業を、企画段階から販路開拓まで一貫して迅速に支援していくため、それを担い得る内部組織の整備と機能の充実に取り組んでまいりました。

具体的には、「地域センター」の相談支援機能の充実を図るとともに、「よろず支援拠点」の県内10圏域でのサテライト化を展開するなど、身近で、気兼ねなく相談できる機会を大幅に増やしたところです。また、本部に「企画連携部」を設置して、機構内における調整機能を強化するとともに、大学や地域の産業支援機関、商工団体、金融機関等との連携を密に展開することによって、県内各地域の二

ーズを幅広く把握し、支援施策に反映していく仕組みづくりを進めてまいりました。

その甲斐あってか、いくつか新たなプロジェクトや研究会等が発足し、これまでに支援してまいりました製品開発や販路開拓等においても、着々と実を結びつつあります。その一方で、未だ当機構のご利用につながっていない事業者様も多くいらっしゃることから、広報機能の充実が課題となっております。

このため、当機構の役割や支援施策、活用方法等についてご紹介するツールとして、当機構の広報誌を創刊することといたしました。この広報誌では、当機構の役割や支援施策、支援事例等を紹介するとともに、当機構をご利用くださっている事業者様の声もお届けすることによって、より多くの皆様に当機構の活動をご認識いただき、是非とも積極的にご活用いただきたいと願っております。広報誌は、当面1月と7月の年2回の発行を予定しております。様々な角度から情報を発信してまいりますので、ご愛読いただきまして、ご意見やご要望等をお寄せいただければ幸いです。

県内産業は、エネルギー・材料価格の高騰や円安、コロナ禍の影響により、依然停滞感が根強く、厳しい経営環境が続いています。これに加えて、グリーンイノベーションやDXなど、新たな課題への対応を求められております。

当機構では、県内の事業者様のあらゆる経営課題、技術課題に対し、寄り添ったご支援をさせていただきます。お気軽にご相談ください。ようご案内申し上げます、広報誌創刊のご挨拶とさせていただきます。

令和5年1月吉日

## 広報誌「Escort」の由来

英語の「伴走」からイメージしました。私たちは関係セクションが一体となって寄り添った支援を行ってまいります。

## 新機構ロゴマーク

新機構の情報や活動を発信するにあたり、県内の皆様に広く認知していただけるようロゴマークを募集し、最優秀賞作品をロゴマークとして採用しました。機構の事業において様々な場面で活用してまいります。

制作者 伴 謙二郎氏【デザインの趣旨・コンセプト】

長野県の産業が、多角的・多面的に展開する、さまざまな分野の産業が詰まった箱だと捉えて、デザインを考えました。青色で六角形のマークは箱を模した形状です。その箱型ベースにNICEの文字を配置することで、長野県の産業のシンボルとして展開します。6つの面で構成される箱は【経営】、【技術】、【販売】、【人材】、【情報】、【交流】を表し、その6つの面を繋ぐ意味を持たせました。青色は誠実・信頼をイメージさせます。本ロゴマークにより長野県の産業が活性化し、発展していくよう願いを込めました。

\*略称NICE : Nagano Industrial and Commercial Encouragement Organization



長野県産業振興機構  
NICE

## 人のつながりをコーディネートする産業振興機構の役割

### 株式会社小松精機工作所

業種：自動車部品製造  
加工分野：精密プレス加工/切削・研削加工など  
設立：1953年（昭和28年）6月1日  
資本金：9,750万円  
海外拠点：タイランド・アメリカ  
所在地：諏訪市大字四賀942-2  
代表取締役社長：小松 滋 氏  
従業員：290名  
<https://www.komatsuseiki.co.jp/>



小松隆史専務取締役から取り組みについてお話を伺いました。

### オリフィスプレートの世界シェア38%

株式会社小松精機工作所は諏訪市四賀に本社を置く精密機械部品加工メーカーだ。売上の98%を自動車の内燃機関の部品で占め、主力となるのが燃料噴射に使われる「オリフィスプレート」である。現在、同社では月産800万個の「オリフィスプレート」の製造を手掛け、その世界シェアは38%を誇る。

「オリフィスプレート」は、電子制御の燃料噴射装置を構成するインジェクタの先端に装着される。微粒化された燃料を、決められた角度に決められた量を供給する重要な役割を担う部品だ。燃料を全く無駄なく燃焼させ、最大限のエネルギー効率をあげるために求められるのは、そこに開けられる孔の微細さと角度だという。

小松精機工作所では、角度にして最大45°、孔径にして最小φ0.0080ミリの斜め孔を±0.00015ミリの精度で開ける。それを可能にしているのが、金型の製作・メンテまで含めたプレス加工技術、さらに切削・研削技術である。そして自社開発した高性能全自動画像識別装置により絶対に不具合を出さない体制で顧客より信頼を得ている。



オリフィスプレート

### 超精密なものづくりは腕時計部品から

小松精機工作所の加工技術は腕時計部品製造から培われてきた。同社は現工ブソン株式会社の専門協力会社として1953年に創業。腕時計部品の組立てから始まった製造は、二次加工、表面処理・熱処理、プレス加工へと領域を拡大した。73年にはプレス金型設計・製作を開始し、部品の一部の一貫製造体制を構築する。



腕時計部品

ところが、腕時計産業の成熟化により、79年に現工ブソン株式会社から自助努力による営業展開を促される。そこで81年に参入したのがIT・情報機械部品業界だった。磨いてきたプレス加工技術を駆使し、FDDやHDD等の読み取り装置を手掛け、当時国内にあったパソコンメーカーのすべてと取引した。

2001年にITバブルが崩壊し、IT・情報機械部品の仕事すべてがなくなっても生き残れたのは、85年に自動車部品の製造を始めていたからに他ならない。とはいえ、エンジン車に使われる「オリフィスプレート」は、カーボニュートラル、EV化の流れで打撃を受けることが予想される。その影響を考えたとき、今また新たなものづくりへ挑戦しなければならない。

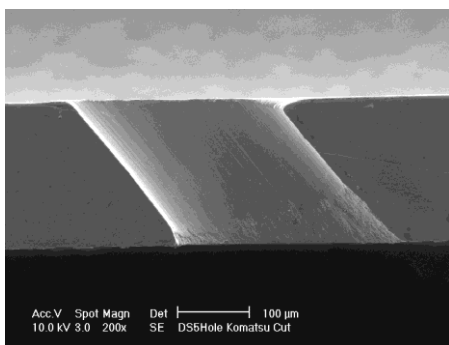


## 材料開発に取り組み新たな挑戦を

旧長野県中小企業振興センターから「材料を理解することで競争力の強化につながる」とのアドバイスを受け着手したのが材料開発だった。折しも2001年に国立研究開発法人物質・材料研究機構より諏訪商工会議所に持ちかけられた超微細粒鋼の研究に小松隆史専務が関心を示す。成分を変えず結晶粒径を微細化することで強度が上がり、追加焼入れが不要なため環境負荷も小さいという特性に可能性を感じたからだ。

研究を始め金属の結晶が微細化すると加工特性が上がり、マイクロ/ナノ部品の品質が向上することが、長野県工業技術総合センターの試験によっても証明された。その結果から最初に可能性を見出したのが医療産業である。

12年からは旧テクノ財団諏訪テクノレイクサイド地域センターの材料研究会で会長も務め、超微細粒鋼の研究を進めた専務は、13年超微細粒鋼ワイヤー nanoSUS® を製品化し、これを用いた鉗子や内視鏡等医療機器の開発・展開を目的とした子会社ナノ・グレインズを設立した。旧テクノ財団メディカル産業支援センターから国の補助金の獲得支援も受け、海外の医療機器展示会へ出展するようになるなど海外市場へ打って出ると、20年にはボストンを拠点とした子会社Rosies Base Holdingsを設立し、アメリカでの医療機器分野への参入を本格化させた。一方国内においても、旧長野県中小企業振興センターの積極的な後押しを得て各種展示会に出展し、新たな取引先を開拓している。



噴射されるガソリンの噴射角度を専用検査設備にて厳しく管理、保証

## 加工系中小企業が生き残るには

小松精機工作所はこれまで旧テクノ財団の支援で様々な研究開発プロジェクトに挑戦している。その一つは、結晶微細化ステンレス材料の生産技術と検査技術の開発であり、プロジェクト化支援やサポイン事業の採択を受け、研究を進めている。

さらに20年には結晶微細化を判別するために開発した磁界式センサー技術を用いた新会社Henry Monitorを設立し、農業土壌の即時分析評価に関してもGo-Tech事業に採択さ

れて、新たな挑戦が始まった。

事業展開のために新たな事業体を構築するには理由がある。時として異文化の導入は会社の文化を大きく変えてしまい、堅調な事業を変えてしまうこともある。そのため、現在のコア技術と企業文化を維持したまま、新たな取組を可能にすることを考えて、これらの事業体を構成してきた。両利きの経営と呼ばれるスタイルを進化させ、会計やコミュニケーションにIT技術を積極的に取り入れ、責任と採算が見えやすい形にしたことは、コロナ禍からできた形である。

加工系中小企業が環境変化に対応して生き残るには、学会などに参加して今後の市場変化を予測し、一緒に楽しく長期に研究できそうな人と連携すべきだと専務は述懐する。そして同社の場合、学会参加や大学との付き合い、人材教育において、旧テクノ財団による支援が大きかったと専務は振り返る。また、創業から今日まで、培った技術を生かす道を拓いてこられたのは人とのつながりのおかげだったと小松滋社長は顧みる。

だからこそ、人との縁、特に異業種の人との出会いをコーディネートする産業振興機構の役割に今後も期待していると、社長と専務は口を揃えて語られた。



他に真似できない高い技術力と優秀な技術者

## 活用した支援制度等

- [医療機器分野のコーディネート支援](#)
- [成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）](#)（旧サポイン）〈経済産業省〉
- [JAPANブランド育成支援事業](#)〈中小企業庁〉

### ◆お問い合わせ

次世代産業部  
TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838  
E-mail : shinsangyo [at] nice-o.or.jp

- [展示会・商談会支援](#)

### ◆お問い合わせ

マーケティング支援部  
TEL : 026-227-5013 FAX : 026-228-2867  
E-mail : market[at]nice-o.or.jp

# 1 山梨大学と燃料電池分野の連携協定を締結

## グリーンイノベーション推進部

長野県産業振興機構（NICE）と国内屈指の燃料電池研究拠点である山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センター（甲府市）は、昨年9月21日水素・燃料電池関連分野の技術力向上及び地域社会発展に係る取組に関して署名式を行い、「連携協定」を締結しました。これにより、県内企業の水素・燃料電池活用のための研究開発や事業化を強力に後押しする体制ができました。

9月14日に行われた山梨、静岡、長野、新潟の知事による中央日本四県サミットにおいても阿部知事から本連携協定について話題提供しました。NICEグリーンイノベーションセンターでは、本連携協定に基づき「工業用燃料電池システム研究会」を同日に設立しました。研究会では、工場の生産ライン向け工業用燃料電池システムの優位性や技術課題の調査研究に取り組み、導入可能性や実証などを行う新たな産学官連携プロジェクトを組成していく予定です。

これら連携協定締結と研究会設立を機に産業実装を加速させ、ゼロカーボンに向けた水素・燃料電池関連の企業の取組を支援して参ります。

グリーンイノベーションセンターの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-31688/>



連携協定を締結した山浦理事長（左）と山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センター長（右）

### お問い合わせ

TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838 E-mail : green-innv [at] nice-o.or.jp

# 2 「価格交渉サポートセミナー」の開催

## マーケティング支援部

原材料価格、エネルギーコスト等が上昇している中、原材料費等の上昇分の適切な価格転嫁を実施するために価格交渉の基本から実践までの交渉ノウハウ等を学ぶ「価格交渉サポートセミナー」を本年度に2回開催しました。過去に中小企業庁主催の価格交渉サポートセミナー講師を経験され価格交渉に精通している講師をお招きしました。

第1回セミナーは昨年7月15日に弥富尚志氏（東京都中小企業診断士協会 中央支部顧問）を招き、会場対面式（テクノプラザおかや）+オンライン式のハイブリッド形式にて合計268人にご参加いただきました。参加者の多くから今後に役立つ内容であったとご好評をいただきました。第2回セミナーは、価格交渉の実践事例を中心とした講演内容で12月9日に荒谷司聖氏（株）プラスパートナーズ代表取締役）を招き、オンライン形式にて151人にご参加いただきました。

このセミナーで得られた価格交渉術を用いて戦略的に価格交渉を続けていくことが重要です。価格交渉に関する相談は、下請かけこみ寺相談窓口や長野県よろず支援拠点でもお受けしています。

第1回セミナー詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/kakakukoushou/>



第2回セミナー詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/kakakukoushou2/>



第1回セミナー会場の様子

### お問い合わせ

TEL : 026-227-5013 FAX : 026-228-2867 E-mail : matching [at] nice-o.or.jp

## 3 IoT導入研修でIT人材育成を支援

### ITバレー推進部

昨年9月から11月にかけて、岡谷市との共催で県内中小企業向けにIoT導入研修を実施しました。IoT（Internet Of Things =モノのインターネット）とは、各種センサーと小型コンピュータ等をネットワークで接続し、機械の動作状況や環境の変化等をデータとして可視化することで、企業の生産性向上につなげる技術のことです。この研修は、ものづくり企業の生産性向上に向けたIoT導入手法を現場で学ぶことができるもので、今年度で4回目を迎えました。

今年度は、(株)牛越製作所（岡谷市）をモデル企業とし、3回の座学研修と5回の実践研修（工場見学・グループワーク）を経て、最終回の「提案報告会」にて、同社向けに検討したIoT導入計画をグループごとにプレゼンテーションしました。各グループのメンバー構成は、製造業、ITベンダー、支援機関等（金融機関・ITコンサルタントを含む）となっており、様々な立場の方が、それぞれの視点でディスカッションと検討を行い、計画書を作り上げました。



提案報告会での講師による講評の様子

コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業の活用事例はこちらから

<https://nagano-it.jp/nit-channel/>



AI・IoT等先端技術活用DX推進事業の活用事例はこちらから

[https://www.pref.nagano.lg.jp/keieishien/documents/ai-iot\\_hojyo\\_jirei.pdf](https://www.pref.nagano.lg.jp/keieishien/documents/ai-iot_hojyo_jirei.pdf)



#### お問い合わせ

TEL : 026-217-1635 FAX : 026-226-8838 E-mail : it-valley [at] nice-o.or.jp

## 4 「真空成形型式副木」産学官連携で事業化

### 信州医療機器事業化開発センター

ファミリー・サービス・エイコー(株)（長野市）が、腕や足の骨折部や外傷などを迅速に固定・処置することができる器材「真空成形型式副木」を開発し、商品化を前に昨年7月に記者会見を開催、11月には販売を開始しました。真空成形型式副木は、中の空気を抜くことにより、発砲ビーズの間隔が縮小することで、患部を固定する医療器材で、医療機器分類ではクラスIに相当します。

信州医療機器事業化開発センターでは、令和3年8月に北アルプス広域消防本部（大町市）で「救急現場のシミュレーション訓練見学会」を開催。救急救命士から現場ニーズを聞き取り、ファミリー・サービス・エイコー(株)とマッチングしました。従来の副木は欧米製で、サイズが大きいため日本人の体形に合わず、素材が厚く腕や足に巻きつけにくく、体液等で汚染した場合に清拭しにくいなどの課題がありました。当センターでは、信州大学とも連携し、ニーズ提供から販路開拓まで産学官による一貫支援を行うことで、事業化を後押ししてきました。



長野県庁で行った記者会見でのデモンストレーションの様子

詳細はこちらから

<https://bit.ly/3WrNRVs>



#### お問い合わせ

TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838 E-mail : med [at] nice-o.or.jp



## 5 | ベトナム・タイのリアル展示会出展支援

### マーケティング支援部

海外渡航に関する規制が緩和され、今年度3年ぶりにベトナムとタイの海外リアル展示会において長野県パビリオンを出展しました。グローバル展開推進員が渡航し、現地にて県内出展企業の商談を積極的にサポートしました。来場者数はコロナ前のレベルに戻りつつあり、以前のような活気ある展示会となって、長野県出展企業にとっても高い商談成果につながる展示会となりました。

10月に開催されたベトナム展示会（METALEX Vietnam2022 ベトナム・ホーチミン）には県内企業6社が出展しました。12月上旬までに6社合計で成約13件、成約金額1,571千円、商談件数135件の大きな商談実績が得られました。11月に開催されたタイ展示会（METALEX2022 タイ・バンコク）には県内企業3社が出展し、3社合計で会期中の商談件数48件の商談実績を得ることができました。来年度（令和5年度）は、当機構が出展する海外展示会数を増やし、海外販路開拓への支援を拡充していきます。



ベトナム展示会での長野県パビリオンの様子

ベトナム展示会出展企業の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-20278/>



タイ展示会出展企業の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-28911/>



#### お問い合わせ

TEL : 026-269-7366 FAX : 026-228-2867 E-mail : kokusai [at] nice-o.or.jp

## 6 | 「産学官連携交流会in松本」を3年ぶりにリアル開催

### 松本センター

産学官連携交流会は、地元企業や大学等の研究機関、行政や産業支援機関が連携の意義や価値を再認識しながら新たなイノベーションを創出することを目的に、平成16年から毎年松本市で開催しています。19回目となる今年度は、産学官の交流機会を拡げたいという想いから、3年ぶりにMウイングでの会場開催を含むハイブリッドにより10月に開催したところ、155名の参加者のうち85名の皆様に実際に会場へ足を運んでいただきました。

今年度は、「産学官連携」の原点に立ち返り、産と学、産と官、産と産などの共同研究において成果をあげた事例を全県から取り上げて、講演とパネル展示を行いました。信州大学林靖人副学長の基調講演では、イノベーションを生み出すためにミカタ（認知の文脈）を変えることの重要性を共有し、㈱信栄食品の神倉藤男社長の招待講演では、長野大学との連携によるマッスルギョーザの成功事例をご紹介いただいたほか、県内大学等と連携した4つの企業の皆様から共同発表を行っていただきました。この取組により、信州発の新たなイノベーションが生まれることを期待しています。

詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-2797/>



講演会場の様子（Mウイング6階ホール）

#### お問い合わせ

TEL : 0263-40-1780 FAX : 0263-47-3380 E-mail : nice-matsumoto [at] nice-o.or.jp

## 7 「ソーシャル・ビジネス創業支援金」採択者決定！

### 経営支援部

近年、社会的課題が多種多様化する中、ビジネスの手法により課題解決に持続的に取り組む「ソーシャル・ビジネス」の存在は、これからの社会に欠かせないものとなっています。そのため、長野県及び当機構では県内の地域課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・イノベーションによる創業等を促進することを目的として、「ソーシャル・ビジネス創業支援金」による創業支援を実施しています。

今年度は1次募集と2次募集を実施したところ84者からの応募があり、「認知症サポーターの育成や認知症カフェの開催等を行う通所介護施設」や「医師によるスマートデバイス、インターネットを用いたリモートパーソナルトレーニング」など21者を補助対象者として採択しました。また、本支援金に関しては、補助対象者専属の伴走支援員を設置しています。起業家が日々直面するさまざまな経営課題や事業計画のブラッシュアップ、資金調達、販路開拓、広報面等でのアドバイスをを行い、事業を確実に実施できるように支援してまいります。

詳細はこちらから

<https://bit.ly/3QB6xQE>



採択者あんきな日様（認知症サポーターの育成や認知症カフェの開催等を行う通所介護施設）

#### お問い合わせ

TEL : 026-227-5028 FAX : 026-227-6086 E-mail : keieishien [at] nice-o.or.jp

## 8 「Go-Tech事業」に新たに3件採択！

### 新産業創出支援本部、地域センター

この度、当機構が事業管理機関として応募した経済産業省の補助事業「成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業（旧サポイン事業））」に、地域課題を解決する無人航空機の開発を行う「長野県航空機システム電動化プロジェクト」を推進するための研究開発など、新たに3件が採択され、現在、当機構が事業管理機関として支援している研究開発計画は5件となりました。

当機構では、県内企業の産学官連携による研究開発を支援し、中小企業等による精密加工、表面処理、立体造形などのものづくり基盤技術やサービスの高度化を図ることを目的として、研究開発や販路開拓を支援するGo-Tech事業の活用を推進しています。今後も県内企業が国や県の競争的資金（補助金）を申請する際には、新産業創出支援本部や地域センターのコーディネーターが事業計画のブラッシュアップや申請書作成などの伴走支援を行ってまいります。

令和4年度に採択された大和電機工業(株)の案件の詳細はこちらから



令和4年度に採択されたクエストコーポレーション(株)と(株)Henry Monitorの案件の詳細はこちらから



研究開発計画名	主たる中小企業者
超精密膜厚制御による放射光施設用フリーフォーム型X線ミラーの開発	夏目光学(株) (飯田市)
水素社会に向けた高リサイクル・高強度耐水素脆性結晶微細化ステンレス棒材の小規模高効率生産技術の開発	(株)小松精機工作所 (諏訪市)
<b>NEW!</b> 大口径(300mm)ウェハに対応した高耐熱性めっき技術の開発	大和電機工業(株) (諏訪市)
<b>NEW!</b> ミリ波レーダGPS/INS技術の融合により実現する山岳物資輸送用無人ヘリの開発	(株)クエストコーポレーション (小布施町)
<b>NEW!</b> 農業土壌の即時分析評価技術の研究開発	(株)Henry Monitor (諏訪市)

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-13095/>

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-24663/>

#### お問い合わせ

TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838 E-mail : shinsangyo [at] nice-o.or.jp



## DXのすすめ

### シリーズ 1

最近「DX」という言葉を多く見聞きするようになってきたように感じますが、読者の皆さんはいかがでしょうか。このコラムでは、DXとは何か、メリットや進め方等を数回に分けてご紹介します。

DXは、デジタル・トランスフォーメーションのことで「デジタル技術を活用した、何らかの変革」を意味しています。DXの最終目的は、企業等の生産性向上や製品・サービスの付加価値向上を行った結果、他社との競争優位につなげることです。この生産性向上や製品・サービスの付加価値向上の部分に、デジタル技術を活用するのです。

では、生産性向上や付加価値向上を行う理由は何でしょうか。経営改善、市場の変化、働き手の不足等への対応として取り組む必要がありそうだとすることは分かります。具体的にどのようなプランで何を実施したらよいのか？すぐには思い浮かばないかもしれません。

次のような考え方に当てはめると、自社がDXに取り組む意義がすっきり整理できる場合があります。

①まず、顧客にどんなニーズ（潜在的なものを含む）があるのか調べ、自社のノウハウやリソースを組み合わせ、新たな事業価値を検討します。これを事業ドメイン分析と言います。

例：レタス生産販売業者が顧客の「毎月、一定品質・一定数のレタスが欲しい」というニーズを認識し、「生産状況によらず一定品質で安定納品」という付加価値を考え、「一定品質で安定納品可能なレタス販売」という新たな事業価値を見出す等

②新たな事業価値を自社のDXの目的とし、目指す姿として捉えます。

例：先の例では「生産状況によらず一定品質で安定納品可能なレタス販売事業」となります。

③目指す姿を実現するために必要な施策を検討します。多くの場合、図の3パターンのどれかになります（そして、どのパターンでも何らかのデジタル技術の活用が選択肢となるはずです）。

例：先の例では「新たな業務プロセス構築」と「新たな製品価値創出」の両方を取り得ます。

④施策の実施が完了した段階で、生産性向上や付加価値向上等、何らかの効果と、目指す姿が達成されます（この過程そのものが「変革」です）。

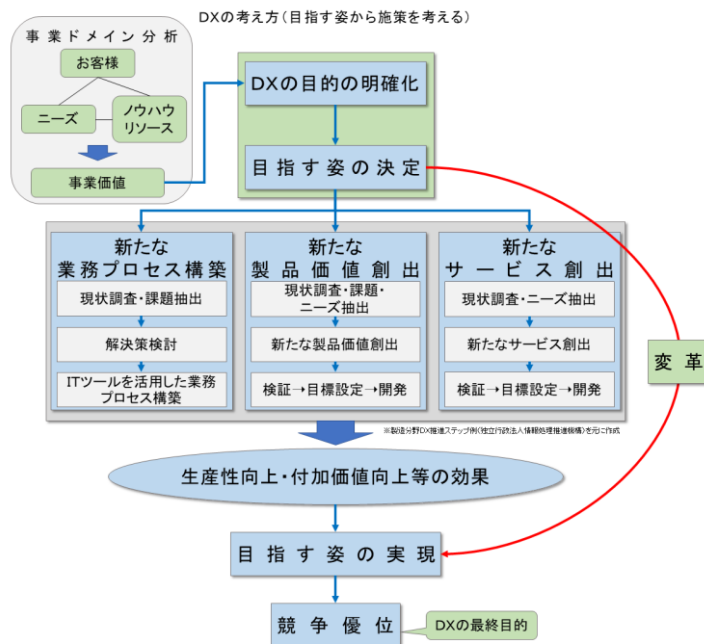
いかがでしょうか。このような考え方は、自社の課題解決に使えるのではないかと思います。次回コラムでは、実例をご紹介する予定です（待てないという方、より詳しく知りたいという方は、NICEまでご連絡をお願いいたします）。

## ITバレー推進部

産業DXコーディネーター 西村 元男

安曇野市 スマート自治体推進アドバイザー、[デジタルデマンド株式会社](#) 代表取締役

企業等のデジタル化、DX等を支援しています。



デジタルによる業務の革新・改善

# 産業DX

コーディネーターにご相談ください

角田孝 西村 元男  
産業DXコーディネーター 産業DXコーディネーター

ご相談・お問い合わせは  
こちらから

<https://dx.nice-o.or.jp/form>

☎ 026-217-1635 ✉ dx[at]nice-o.or.jp



## イベント・セミナーピックアップ

## ■「磁気エレクトロニクス研究会」参加募集

- ・テーマ「磁性材料への要求仕様、光プローブ電流センサ」
- ・日時 令和5年1月25日（水）
- ・会場 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・定員 50名
- ・締切 令和5年1月20日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-15091/>



## ■「経営戦略セミナー」参加募集

- ・テーマ「激変するモノづくり産業への挑戦  
～世界の電機産業から～」
- ・日時 令和5年1月27日（金）
- ・会場 メトロポリタン長野（長野市）
- ・定員 60名
- ・締切 令和5年1月24日（火）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/keissemi-2022/>



## ■「(株)デンソーテン長野県技術提案商談会」参加募集

カーエレクトロニクス製品を開発・製造の同社向けのキャラバン隊です。

- ・日時 令和5年2月中旬頃
- ・会場 (株)デンソーテン（兵庫県神戸市）
- ・実施方法 個別商談形式
- ・締切 令和5年1月27日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/caravan-denso-ten2022/>



## ■「新技術探索研究会」参加募集

- ・テーマ「蓄熱技術と産業用ヒートポンプの事例紹介」
- ・日時 令和5年2月14日（火）
- ・会場 長野市ものづくり支援センター  
UFO Nagano（長野市）
- ・定員 会場30名、オンライン50名
- ・締切 令和5年2月10日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-32642/>



## ■「自動車産業動向セミナー」参加募集

- ・テーマ「電動化自動車（xEV）の最新技術動向」
- ・日時 令和5年2月20日（月）
- ・開催方法 会場+オンラインのハイブリッド方式
- ・定員 会場30名  
オンライン60名
- ・締切 令和5年2月16日（木）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-32745/>



## ■「環境対応技術研究会」個別事例研究成果発表会

- ・日時 令和5年3月8日（水）
- ・開催方法 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・対象 省エネ事例等に興味のある方
- ・募集 令和5年2月中旬～
- ※ 長野県工業総合技術総合センターと共催している研究会です。省エネ手法・もったいないエンジニアリング・環境効率評価についての成果発表を聴講します。

最新のイベント・セミナー情報はこちらから <https://www.nice-o.or.jp/info/>

## NAGANO航空宇宙産業クラスターネット会員募集中！



長野県内に事業所があり、航空宇宙分野において部品や機内設備や関連装置・治具等を製造、取引または研究開発している企業、これから参入を希望する企業、大学、試験研究機関、産業支援機関等の加入を募集しています。

お問い合わせ 次世代産業部 航空機産業支援センター  
（NAGANO航空宇宙産業クラスターネット事務局：エス・バード内）  
TEL：0265-49-8047 FAX：0265-49-8048 E-mail：aerospace [at] nice-o.or.jp  
URL：<https://acn-nagano.jp/>



## テクノリーチナガノ（Techno Reach Nagano）に登録ください！

貴社の技術・製品（工業系）を国内外発注顧客に発信できる課題解決型ビジネスマッチングプラットフォームです。大手メーカーとの定期的な商談会への参加、営業効率・受注率の向上、発注企業への発信力向上にご活用ください。

お問い合わせ マーケティング支援部  
TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867 E-mail：treach [at] nice-o.or.jp  
URL：<https://t-reach.nice-o.or.jp/>



## 研究会紹介

### 地域資源循環型 複合材料研究会



[https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/12/GiC\\_①地域資源循環型複合材料研究会.pdf](https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/12/GiC_①地域資源循環型複合材料研究会.pdf)

地域特性が高い県産木質材料や農産物・食品残渣等を活用してバイオ系樹脂等と複合化した低環境負荷材料の開発を目指す企業が参集し、循環型経済（サーキュラーエコノミー）を社会実装した循環型社会の仕組みを探求して、産学官連携プロジェクトの創出を目指しています。

◆次回研究会 令和5年2月27日（月） 開催予定



研究会メンバーの試作品展示  
(Matching HUB)



研究会発足の起点となる  
山梨大との連携協定

ゼロカーボンに向けて大いに期待される技術である「工業用燃料電池」の普及を目指し、近い将来のシステム導入の可能性や新たな開発プロジェクトテーマを見出すために、この技術の利点・優位性と課題を調査・研究し、情報交換を行っています。

◆次回研究会 令和5年2月9日（木） 開催予定

<https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/12/GiC②工業用燃料電池システム研究会.pdf>

### 工業用燃料電池 システム研究会



### 環境品質モビリティ研究会



[https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/12/GiC\\_③環境品質モビリティ研究会.pdf](https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/12/GiC_③環境品質モビリティ研究会.pdf)

自動車産業を取り巻くゼロカーボン対応の大きな流れの中で、長野県の自動車部品関連産業の競争力向上を目指すために、先進的な「環境品質」の手法等を研究しています。

◆次回研究会 令和5年1月20日（金）

2月17日（金） 開催予定



栄養と美味しさに機能性をプラス  
(えのきたっぷりメンチカツ：  
株)大福食品工業)

「長野県 JA 産えのきたけ」（消費者庁届出商品名）の機能性成分を含む食肉代替食材を利用した総菜や菓子類を製造する加工技術を開発し、「機能性表示食品」としてターゲットとニーズを明確にした複数の商品開発につなげる研究会です。

[https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/10/NICEPR\\_enokitake.pdf](https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2022/10/NICEPR_enokitake.pdf)

### きのこ機能性加工 食品研究会



## ニーズピッチ動画募集中!! 技術課題を解決しませんか?

県内ものづくり企業様のピッチ動画によるプレゼンテーションを通して、技術課題や必要とする技術シーズを研究者に伝え、保有技術を研究者や他企業にアピールすることで、課題の解決や産学官連携を促進し、企業の新たな事業創出を推進します。

詳しくは→ <https://www.nice-o.or.jp/info/info-11131/>







長野県産業振興機構  
NICE

# 公益財団法人長野県産業振興機構

Nagano Industrial and Commercial Encouragement Organization

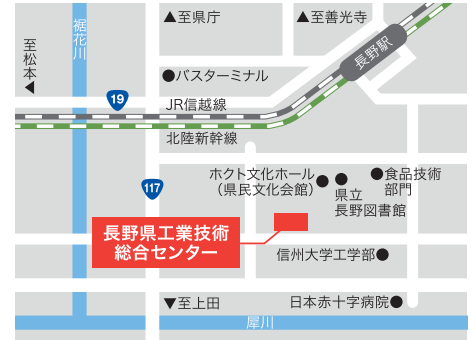
設立/2022年4月1日(沿革:[https://www.nice-o.or.jp/about\\_intro/](https://www.nice-o.or.jp/about_intro/))

基金/66億円

目的/技術革新による地域産業の高度化と産業創出を促進するとともに、県内企業の経営革新及び経営基盤の強化等を支援し、県内産業の発展と地域経済の活性化に寄与する。

〒380-0928 長野市若里1-18-1 長野県工業技術総合センター3F  
TEL.026-226-8101 FAX.026-226-8838 E-mail:nice@nice-o.or.jp  
URL:<https://www.nice-o.or.jp/>

業務時間/午前8時30分から午後5時15分まで  
土曜日、日曜日、年末年始(12月29日から1月3日)を除く。



- JR長野駅東口より徒歩25分、車で10分
- JR長野駅東口より長野電鉄バス日赤ゆき、北市または信大工学部前バス停より徒歩10分

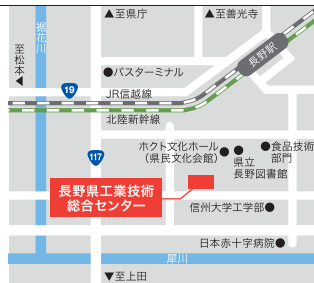
## ご相談窓口&お問い合わせ先

総務管理部	TEL.026-226-8101	経営支援部	TEL.026-227-5028
企画連携部	TEL.026-227-5803	長野県よろず支援拠点	TEL.026-227-5875
次世代産業部	TEL.026-217-1634	マーケティング支援部	TEL.026-227-5013
・信州医療機器事業化開発センター		・消費財チーム	TEL.026-235-7246
・航空機産業支援センター		企業再生支援部	TEL.026-227-6235
飯田サテライト	TEL.0265-49-8047	(長野県中小企業活性化協議会)	
グリーンイノベーション推進部	TEL.026-217-1634	事業承継・引継ぎ支援部	TEL.026-219-3825
(グリーンイノベーションセンター)		(長野県事業承継・引継ぎ支援センター)	
ITバレー推進部	TEL.026-217-1635		

## 地域センター

### 長野センター (NICE長野)

〒380-0928  
長野市若里1-18-1  
長野県工業技術総合センター3F  
TEL.026-225-6650  
FAX.026-225-6711



- JR長野駅東口より徒歩25分、車で10分
- JR長野駅東口より長野電鉄バス日赤ゆき、北市または信大工学部前バス停より徒歩10分

### 諏訪センター (NICE諏訪)

〒392-8601  
諏訪市上川1-1644-10  
諏訪合同庁舎内  
TEL.0266-53-6000  
(内線2663、2664)  
FAX.0266-57-0281



- JR上諏訪駅より徒歩25分、車で10分
- 中央自動車道諏訪ICより車で10分

### 上田センター (NICE上田)

〒386-8555  
上田市材木町1-2-6  
上田合同庁舎内  
TEL.0268-23-6788  
FAX.0268-23-6673



- しなの鉄道上田駅お城口より徒歩20分、車で5分
- 上信越自動車道上田ICより車で10分

### 伊那センター (NICE伊那)

〒399-4501  
伊那市西箕輪2415-6  
伊那技術形成センター内  
TEL.0265-76-5668  
FAX.0265-73-9023



- 伊那インター工業団地北端
- 中央自動車道伊那ICより車で8分
- JR伊那市駅より車で15分

### 松本センター (NICE松本)

〒390-0852  
松本市大字島立1020  
松本合同庁舎内  
TEL.0263-40-1780  
FAX.0263-47-3380



- JR松本駅より徒歩30分、車で10分
- 長野自動車道松本ICより車で2分